



校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



岡山県マスコット「ももっち・うらうっちと仲間たち」

R7年度 第5号①
津山教育事務所 2月

学校経営オンライン座談会（1／27）

「校長のビジョンはどう組織を動かしたのか～主体的・組織的にPDCAが回る組織の実際～」

奈義：奈義小：加治校長先生と美咲：中央中：有元校長先生にそれぞれの実践を語ってもらいました。約60名の皆様に参加していただき、多くの学びを得ることができました。

校長先生のプレゼン資料や参加者の皆様からいただいたキーワードをもとに各校の特色を紹介したいと思います。

特色ある学校紹介

奈義町立奈義小学校

奈義町一貫教育教育目標

夢に向かって

自ら学び ともに高め合う「なぎっ子」の育成

★組織的にPDCAが回る組織にするために アクションプラン活用

○具体的な取組の提示 ⇒ 見通しを持つ・ベクトル合わせ

いつ・誰が・何を・どのように・評価

○小刻みなフィードバック ⇒ モチベーションアップ・切磋琢磨

数値・子どもの姿・先生方の姿・保護者の反応

★学校経営計画書・アクションプラン・学校評価書を連動させる ⇒ シンプルに整理



奈義町特産農産物
キヤラクター
「さと丸くん」

ミッション



- ①外国語活動・外国語学習の充実
- ②学力向上の取組
- ③コミュニケーション教育
- ④自己肯定感の醸成
- ⑤長欠不登校解消に向けた取組

①外国語活動・外国語学習の充実

- ・ALT6人を活用
- ・時間割の工夫・場所の工夫
- ・**発話量を増やすための授業形態の工夫**
- ・オンラインレッスン
- ・職員ミニ研修

奈義小 外国語の取組詳細は
岡山県教育委員会NOTE参照



つながる 温かい雰囲気 コミュニケーション
子どもたちの表情 質をそろえる 高める



校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



R7年度 第5号②
津山教育事務所 2月

特色ある学校紹介

奈義町立奈義小学校

②学力向上の取組

- 問題解決型学習
パワーアップサポート事業
外部講師 研究の充実
年度当初の**示範授業**
学習の流れの提示
質をそろえる 高める

・学力向上システムのサイクル

- 自校採点・分析
職員との面談・授業改善
克服プリント活用
繰り返し挑戦
若手職員の切磋琢磨
自分事



奈義町キャラクター
「さとまるくん」

・補充学習 さとまるタイム

- 系統的 プリント学習システム
職員の自主性・自分事

・基礎計算さとまるプロジェクト

- 1・2年の基礎計算力
教職員・保護者・地域住民の活用
児童の自己肯定感醸成 地域巻き込む

③コミュニケーション教育

- 自己表現 他者理解 合意形成
演劇的手法
人権の視点から整理し直す
⇒子どもたちの落ち着き
話し合い活動
折り合いの付け方
この教育活動の意味づけ
教職員の納得感 必要感



④自己肯定感の醸成

- 子どもたちの主体的活動を積極的に**
運動会 合言葉
あいさつ・笑顔・感謝
子ども議会
自分たちに何ができるか
集会活動
下学年に楽しんでもらう

⑤長欠不登校対策の取組

- 欠席理由「気持ち」
→家庭連絡「どんな気持ち？」
つながる
・どこに焦点を当てるか
欠席人数見える化
つながることの成果 自分事
・欠席児童の減少
平素からのコミュニケーション
温かい雰囲気 わかる授業

どう組織を動かしたのか

- ・焦点化 ・成果の見える化 ・つなぐ力 ・根回し・説得力 ・繰り返し
・子どもと職員は相似形

自分らしくおもしろがって 仕事をする





校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



R7年度 第5号③
津山教育事務所 2月

岡山県マスコット「ももっ
ち・うらっちと仲間たち」

特色ある学校紹介 美咲町立中央中学校

ふるさとを愛し心豊かにたくましく生きる中央っ子」の育成 ～未来に向かって輝く子ども～

R3～R5「自己肯定感向上の取組」

1 困難課題対応的生徒指導

自立応援室

できること、取り組むことを **自分で決めて** 過ごせる
ようにサポート

保健室 安心して過ごせるスペース確保

支援会議 支援シート（担任記入）情報まとめ
(入学前・家庭環境・友人関係・学習面・心理
社会面・健康面・生活・進路面・家庭生活)

支援方針 何を・だれが・いつまでに

支援方針・方法に基づきそれぞれの立場で
関わる ⇒ チーム支援

**生徒を多面的に捉え、事例をアセスメントする力を
つけることにつながる**

2 課題予防的生徒指導

SEL授業

良質なコミュニケーションを体験する場
教師も楽しむ 温かい雰囲気

方針：生徒指導提要が示す2軸3類4層の考え方
に基づいて包括的に取り組む

3 発達支持的生徒指導

ピアサポート活動

SELの学び「上手な指示の出し方」

⇒ 【実践】運動会

リーダーとして、集団演技や競技種目の練習や
ブロック旗の制作をすすめる
練習プランシート

リーダーの姿を見てフォロワーも育ち始める

教員は様子を見ながらリーダーをサポート

⇒ 【実践】生徒会

生徒全員が楽しいと思える学校って？

中央中学校 **未来の学校像 生徒総会で発表**

4 学年末に目指す具体的な生徒の姿を共有

生徒の現状 これまでの成果 変容

Hyper-QU結果も分析

⇒ **学年団として学年末に目指す姿 見える化**
そのための計画・方策



校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



R7年度 第5号④
津山教育事務所 2月

特色ある学校紹介

美咲町立中央中学校

R6～新たなステージへ 生徒にとって「魅力ある」学校へ 教科指導と生徒指導の一体化と「自己有用感」の育成

1 「魅力ある学校づくり」推進委員会-3部会
生徒意識調査 「学校が楽しい」「みんなで何かをするのが楽しい」「授業に主体的に取り組んでいる」「授業がよくわかる」

2 授業づくり部会

生徒指導4つの視点を意識した授業実践
自己存在感の感受 自己決定の場の提供
共感的な人間関係の育成 安全安心な風土の醸成
⇒日々の授業の中にも内在化させる

具体的な手立てのリスト化

それぞれの授業実践をベースに作成
他者の工夫や実践を知り吸収する
重点的に取り組むことの確認⇒共通実践へ

手立ての有効性を生徒も教師も評価できる振り返りの工夫

ロイロノート活用 振り返りシート活用

3 ピア・サポート部会

SEL、ピア・サポート活動のグレードアップ
「話し合いの仕方」中央中バージョン
未来の中央中学校像 次のステップへ
Be a challenger～仲間とともに挑戦を～

生徒会 主体的に企画運営「全校で楽しむ会」

⇒R7 学年でも企画

取組成果の見える化（写真や生徒の感想）

他者理解 共感性を高める

活動や集団への貢献に対するフィードバック
自己有用感へ

4 小中連携部会 中学校区公開研修

意識調査をもとに今後の取組を学年毎に検討
手立ての立案 見積もり値の設定

5 生徒の取組を次の学年へ

6 若手から中堅リーダーへ 前向きな中堅



学校経営で大切にしてきたこと

- 教職員のやりたいことと生徒の課題とのマッチング
- 教職員の依頼・相談へ校長が即対応 ⇔ 主体的な教職員集団



校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



学校経営オンライン座談会（1/27）テーマ

「校長のビジョンはどう組織を動かしたのか～主体的・組織的にPDCAが回る組織の実際～」

参加者の皆様からの感想を数多く寄せいただきました。その中から、感想の一部を共有したいと思います。

学校の経営者として、到底20分という時間内では収まりきらない溢れる情熱が画面越しに伝わってきました。校長として課題を分析し、明確なビジョンをもとにシンプルに粘り強く取り組んでいく。そこには、校長としての熱い教育理念があり、職員の心を動かす力を感じました。子どもと職員は相似形。きっと子どもも職員も周りにいるみんなも、幸せになりたいという思いは同じだと思います。その幸せをどう創り上げていくか、職員とともに考え職員の心が動く働きを行っていきたいと思います。

お二人の校長先生のお話には3つの共通点があるように思いました。1つ目は、お二人の考えのベースや学校教育目標に「おもしろがる」「楽しみながら」というフレーズが含まれていたことです。そのようなリーダーの姿勢は「子供と職員は相似形」というお言葉の通り、生徒も先生方も「言われたからする」のではなく「少しづくわくしながらする」ように進めていけるのではないかでしょうか。

2つ目は、「具体」を大切にされていたことです。着任されて多くの課題などをご自身で感じられ、そのことを数字や客観的なデータなどから分析し、具体的に焦点化されてゴールを示されている姿勢が学校を前に前に進めておられるのだと感じました。実現のためにこまめなフィードバックや対話を重ねられ、環境などのせいにせずチームでできることを考えて具現化されている姿勢が大変印象的でした。

3つ目は、学力や不登校など学校の課題のベースとして、「人と人のつながり」を重視されていたことです。小学校でグループで劇をしてテーマを当ててもらう取組や、中学校での良質なコミュニケーションを体験させて実践させる取組は人と人のつながりを太く柔らかくしていく、生涯、生徒たちが身につけていく力の一助になるかと思います。

最後に有元校長先生がおっしゃった、「やりたいことと生徒の課題とがマッチしているか」「リーダーが判断するときの根拠を丁寧に説明すること」「先生方にできるだけ早く返す」ことも自分が今後心がけて先生方と実践したいことだと思いました。

学校経営を力強く進めておられる校長先生方のお話を聞かせていただき、大変勉強になりました。すぐに取り入れたいと思ってることは、職員へのフィードバックの視点です。数値や子どもや先生の姿、保護者の反応をしっかり返していくことによって、先生方の主体性を引き出していくことは、意識してはいるつもりですが、大事であることを再確認させていただきました。お二人とも、子どもの実態からビジョンを考え、シンプルでわかりやすく職員に示していることが成果につながっていると思いました。

校長の伝えたいこと、学校教育目標やアクションプラン等の共通の目標をシンプルにすること、明確にすること、見える化すること、根拠を示すことの重要性と必要性を改めて感じました。そして、生徒に伝えたいことは、教職員にも伝えたいことなのだと感じました。このような研修の度、好事例から共通項を見出すことの大切さを感じます。自分自身に何が活かしていくのかを学びのたびに自分に積み重ねていきたいと思います。

ビジョンをシンプルに伝えること、取組すべてが無駄にならないようPDCAサイクルを回していくこと、さらには児童・生徒・教職員が主体的に取り組んでいけるよう願い、組織を戦略的に構成し動かすこと等、学校規模に関係なく取り入れができると感じました。長欠・不登校対策も然りです。コミュニケーション教育やSEL授業も含め、すべての教育活動が繋がったビジョンを持っていることの大切さを改めて学ばせていただきました。

数値や事実に基づきながら取組を見直し、教職員の主体性を引き出すことの大切さを改めて感じました。両校とも子どもの姿を丁寧に捉えて改善を重ねているところ、校長先生や教職員のやりたいことが子どもたちの課題と合致しているかどうかを大切にしている点が印象に残りました。自校においても、成果の見える化を図りながら、子どもと教職員が共に成長できる学校づくりに生かしていきたいと思います。